



強みを生かして  
自社で一貫生産できる

## 生活と時代をまたぎ、つなぐ靴。 オリジナルブランドへの挑戦。



大仙市で、革靴、スニーカーなどの製造を手がける「株式会社ユーイーアイ」。昭和51年の創業当初は羽後通信工業という名で弱電部品の製造を行っていたが、平成10年より靴の製造業へ業態転換。以来、OEMを中心に靴の製造を続けてきた同社が、このたびオリジナルブランドを立ち上げた。その背景と想いを、代表の加藤淳弥氏に伺う。

### 変化する靴の産業

「同業他社がどんどん廃業し、うちも石にしがみついて粘っているような状態です」と加藤氏。

海外製品との価格競争が進み、継続が厳しくなっている国内のものづくり。同社では、ゴアテックス社の工場認定を受けるなど自社にしかできない業務を行っているものの、OEMの場合、受注数は相手方の判断次第となり、価格決定権もない。とくにコロナ禍ではダイレクトに打撃を受けた。



代表取締役  
加藤 淳弥 Kato Junya  
〒014-0067  
大仙市飯田大道端40-14  
TEL.0187-63-8027

◎設立/1998年  
◎資本金/1,000万円  
◎従業員数/27名  
◎業務内容/革靴やスニーカーの企画・製造・販売

そして、こと革靴の製造規模の縮小には、世の中のウェアリング(着こなし)の変化が大きく影響しているという。リモートワークや軽装で勤務できる職場が増えたことで革靴の需要が縮小しているのだ。

### 「SEAM.SHOES」の開発へ

そこで動き出したのが、オリジナルブランド「SEAM.SHOES (シーム・シューズ)」の開発だ。

「プライベートな空間が仕事場になったり、仕事場から直接子どものお迎えに行ったり……。現代は、公私の場面場面をまたいで生活している人が多いんです」と加藤氏。この層をターゲットに、フォーマルでもプライベートでも履けるような靴を目指した。

脱ぎ履きのしやすいシンプルなデザインで、3種のアッパーと2種のソールを組み合わせた全6パターンから選べる。現在、サイズ展開は3つのみだが、それぞれにインソールとアジャスターを入れることで微調整できる仕様となっている。

分業の多い靴製造業界で、設計、裁断、縫製、成型……すべてを自社でできるのがユーイーアイの最大の強み。日々の受注業務を行いながらの開発には時間を要したが、プランナーとのディスカッションと職人たちの試作を重ね、完成に至った。

### またぎ、つなぐ靴

この「SEAM.SHOES」は、10月の展示会を皮切りに販売開始となるが、目指すのは「靴屋が売る靴」を越えた展開だ。



会長(写真右)も現場をチェックしより良い靴づくりを目指しています。



オリジナルブランドの開発は当センターのセミナーをきっかけに出会ったプランナーの協力を得ながら「JAPANブランド育成支援等事業費補助金」を活用し行った。



企画、設計、裁断、縫製、成型……すべてを自社で行なっています。



靴箱に書かれた「ANY TIME AT ALL」という言葉。「日常から特別な日まで。いつでも履ける、いつまでも履ける靴」というコンセプトが込められている。

ECでの販売を行いながらも、ターゲット層が好む文具店や雑貨店、ポップアップ・ストアでの販売も行っていくという。

ブランド名の「SEAM」とは「縫う」という意味。異なる場面をまたぎ、つないでいくというコンセプトから名付けられた。生活様式、売り場の概念、そして時代の変化をもまたぎ靴の挑戦が、いま始まろうとしている。